

報告 平成27年度筑波大学社会貢献プロジェクト 「東北3県柔道キャラバン」活動報告

著者	川戸 湧也, 増地 克之, 小野 卓志, 平岡 拓晃, 秋本 啓之, 近藤 俊
著者別名	Kawato Yuya, Masuchi Katsuyuki, Ono Takashi, Hiraoka Hiroaki, Akimoto Hiroyuki, Kondo Shun
雑誌名	大学体育研究
号	38
ページ	29-31
発行年	2016-03
その他のタイトル	Reports Social action work by University of Tsukuba at 2015 report of "JUDO Caravan in Tohoku"
URL	http://hdl.handle.net/2241/00138885

平成 27 年度筑波大学社会貢献プロジェクト 「東北 3 県柔道キャラバン」活動報告

川戸湧也¹⁾, 増地克之²⁾, 小野卓志²⁾, 平岡拓晃³⁾, 秋本啓之⁴⁾, 近藤 俊¹⁾

1. はじめに

本学柔道部では、平成 25 年度より筑波大学社会貢献プロジェクトの一環として東日本大震災における被災地域である東北地方の 3 県（岩手県、宮城県、福島県）を対象とした柔道教室を開催している。

3 年目となる今回は宮城県登米市の豊郷柔道クラブならびに福島県南相馬市原町柔道スポーツ少年団に本学柔道部関係者を派遣し、指導者ならびに少年柔道家に対する実技指導を実施した。

本稿では、2 日間にわたって実施された柔道教室の様子を報告する。

2. 実施期間

平成 27 年 12 月 19 日(土)～12 月 20 日(日)

3. 実施場所

「登米市総合体育館」(登米市寺池日子待井 10)

「南相馬市スポーツセンター」(南相馬市原町桜井町 2-200)

4. 講師

①増地克之(体育系准教授, 講道館柔道六段,

本学柔道部監督)

②小野卓志(体育系特任助教, 講道館柔道六段, 本学柔道部コーチ)

③平岡拓晃(人間総合科学研究科 3 年生博士課程 1 年次, 講道館柔道五段, 本学柔道部コーチ)

④秋本啓之(了徳寺学園職, 平成平 23 年修了, 講道館柔道五段)

⑤川戸湧也(人間総合科学研究科体育学専攻 2 年次, 講道館柔道四段)

⑥近藤 俊(人間総合科学研究科体育学専攻 2 年次, 講道館柔道三段)

5. 参加者

参加者は 2 日間合わせて総勢 68 名であった。内訳は以下に示す通りである。

「登米市総合体育館」43 名(豊里柔道クラブ 25 名, 一関学院高校 17 名, 天掌塾 1 名)

「南相馬市スポーツセンター」25 名(原町柔道スポーツ少年団 25 名)

6. 実施内容

12 月 19 日(土)

15:00 開講式

豊里柔道クラブ会長の佐々木秀徳氏より歓迎の挨拶が述べられた, 続いて増地氏より本事業

1) 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程体育学専攻

2) 筑波大学体育系

3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科 3 年制博士課程スポーツ医学専攻

4) 了徳寺学園

の趣旨についての説明と講師の紹介が行われた。

15：10 準備運動

川戸氏と近藤氏の指揮によってウォーミングアップが行われ、ダッシュや回転運動が行われた。

15：40 講習

はじめに小野氏より「内股」の説明が行われた。続いて平岡氏より「一本背負投」の説明が行われた。最後に秋本氏より「背負投」の説明が行われた。

17：00 乱取

講師陣が元に立ち、2分×10本の乱取を行った。

18：00 閉講式

増地氏より今回派遣された講師陣のサインが書かれた色紙と2015年世界選手権者である永瀬貴規氏（体育専門学群4年次）のサイン色紙が手渡され、閉講式とした。

12月20日（日）

13：00 開校式

原町柔道スポーツ少年団理事長の大亀清壽氏ならびに南相馬市長代理から歓迎の挨拶が述べられ、前日と同様に増地氏より本事業の趣旨についての説明と講師の紹介が行われた。

13：10 準備運動

原町柔道スポーツ少年団の団員によって、ス

ポーツ少年団が通常実施している内容の準備運動を行った。

13：30 寝技の講習

増地氏より寝技の補強運動の意義と行い方について講習が行われた。特に寝技の場面において相手に背中を向けずに常に正対することについて演示しながら説明がなされた。

14：00 立ち技の講習

小野氏より「体落」、秋本氏より「背負投」の説明がそれぞれ行われた。

15：00 乱取

前日と同様、講師陣が元に立ち、2分×10本の乱取を行った。

15：30 意見交換会・閉講式

乱取の後、指導者ならびに生徒との意見交換会が行われた。その後、整列し相互に礼を交わした。最後に全員で記念撮影を行いすべての日程が終了した。

7. 総括

「登米市総合体育館」では豊里柔道クラブの生徒が中心であったが、昨年訪問した一関学院高校の生徒も来場しており、小学生から高校生までの幅広い年齢の子どもたちを対象に指導をおこなった。そのため指導では技の特徴や基本的なポイントについて重点的に説明が行われた。より発展的な段階にある高校生などには講師が巡回中に個別に指導に当たった。

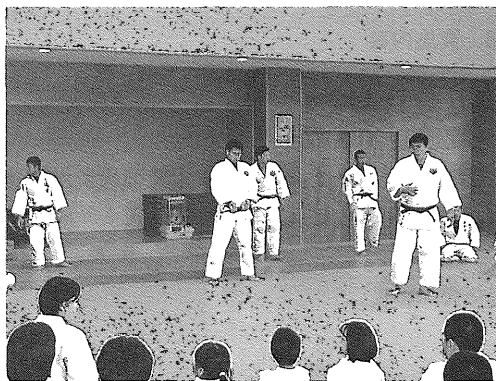


写真1 宮城県登米市での指導



写真2 福島県南相馬市での指導

「南相馬市スポーツセンター」においては指導対象が小学生で中心であったため、乱取の時間を多く取り、一緒に稽古を行う時間を多く設けた。

いずれの会場においても子ども達をはじめ指導者、保護者より講師陣に対して多く質問が寄せられた。特に技術指導の際のポイントについて、試合に臨む際の心持ち、子どもが直面しがちな課題に対するアプローチ法など指導者からの質問が多かった。このように指導者とも意見交換ができたことは微力ではあるが対象地域の

柔道の発展に貢献できたであろう。

本事業のさらなる充実を図るために、今後は現場の指導者の要求を事前にリサーチするなど、子どもたちだけでなく、指導者に対する講習内容の改善と充実を目指していきたい。何より今後も本事業を継続することによって、東北3県における柔道の普及、振興、発展に注力していきたい。

最後に、今回の柔道教室開催にご尽力いただいた関係各位に御礼を申し上げ、報告とさせていただきます。